学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）　1
１．　医学部、医学系研究科　3

注）現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

滋賀医科大学

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
医学部、医学系研究科	【２】	相応の質にある	【２】	相応の質にある

１．医学部、医学系研究科

（　分析項目Ⅰ　研究活動の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4　）

（　分析項目Ⅱ　研究成果の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4　）

分析項目Ⅰ　研究活動の状況

〔判定〕　相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

○　平成 28 年 4 月、認知症に対する先制医療開発プロジェクト（サルモデル作出応用と併行した包括的アプローチ）で認知症を主とした病態解明研究を推進し、早期診断・治療法の開発とその臨床応用を進めるため、分子神経科学研究センターを「神経難病研究センター」へ改組した。「基礎研究ユニット」、「橋渡し研究ユニット」、「臨床研究ユニット」という基礎と臨床を融合した研究体制を構築するとともに、橋渡し研究ユニット内に「国際共同研究部門」を設置し、外国人研究者を招聘して国際共同研究を行っている。臨床研究ユニットは、内科学講座（脳神経内科）のスタッフが兼任しており、認知症の他に筋萎縮性側索硬化症　(ALS)　をはじめとする神経難病に対する病態解明と診断・治療法の開発に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ　研究成果の状況

〔判定〕　相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、28 報、９報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。